

敬老祝金の見直しについて

◎ 趣 旨

敬老祝金の見直しに係る方向性についてご意見を伺うもの

1 敬老祝金の目的・意義

高齢者に敬老の祝意を表し、高齢者福祉への理解促進を図るとともに、高齢者の心身の健康保持の意欲を高めることを目的とする。

2 事業概要

事業内容及び実績（令和元年度）

		支給額（円）	人数	実績額（千円）
対象者数	80歳	10,000	3,996	39,960
	90歳	30,000	1,571	47,130
	100歳	100,000	95	9,500
	計		5,662	96,290

3 外部環境の変化（別紙参照）

(1) 健康・平均寿命

国の平均寿命は平成29年、本市の平均寿命も平成28年時点で男女とも80歳を超えており、本市の元気高齢者（介護認定を受けていない方）の割合も、平成19年度に金額の見直しを行った時と比較し、80歳における伸長が顕著である。

(2) 市民意識

ア 各種調査結果

● 高齢者年齢に関する意識（平成22年本市「高齢者施策に関する意識調査」）

- ・ 「長寿にふさわしいと思う年齢は」では80歳以上が38.0%で最も高かった。

● 敬老事業に関する意識

- ・ 「敬老の年齢になった時、市からお祝いしてほしいか」では、「祝ってほしい」40.7%、「その必要はない」38.4%と拮抗していた。（平成30年本市「世論調査」）
- ・ 「敬老祝金を見直し、高齢者が安心して暮らせるための福祉サービスを充実していくことについてどう思うか」では、賛同できる、まあ賛同できるの合計が75.1%と多数を占めた。（平成22年本市「世論調査」）

● 今後必要な施策上位（R1本市意識調査）

- ① 介護予防サービスの充実・生きがい対策の充実
- ② 地域包括支援センターなどの身近な相談窓口の充実
- ③ 認知症の高齢者や介護家族等への支援の充実
- ④ 介護を支える人材の育成や支援の充実

4 課題

- ・ 少子高齢化，核家族化が進み，現役世代の減少も見込まれる中で，これまで家族が担ってきた子育て，高齢者に対する生活支援，介護などを社会全体で支援していく必要性が高まってきており，そのような分野で経験豊富な高齢者が現役世代の補助的な役割を担い，社会の支え手として活躍してもらうことが望まれている。
- ・ 高齢者の健康に関する意識の向上や医療の進歩等に伴う平均寿命の延伸など，高齢者を取り巻く環境を踏まえ，これを反映した事業内容となるよう検討が必要

5 事業見直しの考え方

(1) 敬老事業の意義

- ・ 敬老祝金，敬老会，100歳高齢者訪問からなる「敬老事業」は，長寿を祝いながら，家族や地域で交流を深めていくことで，人と人とのつながりが強まり，市民が高齢者福祉を理解し，関心を持つための一助となっている。
- ・ このうち，敬老祝金は，高齢者が節目の年齢にこれまでの生活を振り返り，これからの健康を意識するきっかけとなっている。

(2) 敬老祝金の見直しの方向性

- ・ 「敬老祝金」については高齢者がいつまでも元気で，生きがいをもって社会に参加できるよう，以下の視点で見直しを行う。
 - ① 平均寿命が対象年齢を上回ったこと
 - ② 高齢者の健康状態が向上していること
 - ③ 高齢者施策に関する市民ニーズが変化してきたこと